

尼崎市立学校の令和5年度いじめの 認知状況について

はじめに

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

(1) 調査の目的

生徒指導上の諸課題の現状を把握することにより、今後の施策の推進に資するものとする。

(2) 調査の沿革

児童生徒の問題行動等は、教育関係者のみならず、広く国民一般の憂慮するところであり、その解決を図ることは教育の緊急の課題となっていることに鑑み、児童生徒の問題行動等について、事態をより正確に把握し、これらの問題に対する指導の一層の充実を図るため、毎年度、暴力行為、いじめ、不登校、自殺等の状況等について調査を行っている。

なお、調査の結果は、効果的な施策を講じるための基礎的なデータであることから、調査開始以降、調査項目や調査対象については随時追加・見直しを行っている。

(3) 調査の対象（いじめの状況等）

国公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、都道府県教育委員会、市区町村教育委員会

はじめに

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

(I) 文部科学省の公表資料

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm



● 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

1、調査の概要

- [児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の概要](#)

2、調査の結果

- [統計表一覧\(※政府統計の総合窓口\(e-Stat\)のホームページへリンク\)](#)

3、各年度の調査結果(PDF)

- [令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 \(PDF:2,808KB\)](#)  NEW
- [令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果概要 \(PDF:1,304KB\)](#)  NEW

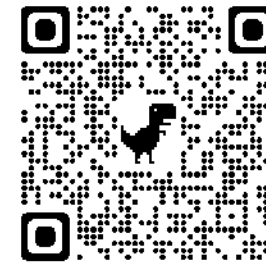


はじめに

「児童生徒の問題行動・不登校等 生徒指導上の諸課題に関する調査」

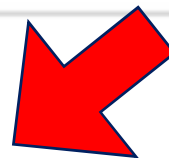
(2) 兵庫県の公表資料

<https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/gimu/survey/>



兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況

- [令和5年度の状況\(R6.10.31\)](#) 
- [令和4年度の状況\(R5.10.16\)](#) 
- [令和3年度の状況\(R4.10.27\)](#) 
- [令和2年度の状況\(R3.10.13\)](#) 
- [令和元年度の状況\(R2.10.22\)](#) 



いじめの認知件数

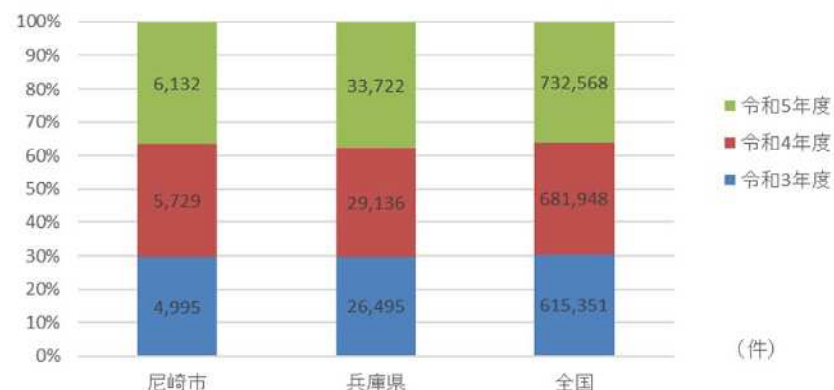
<尼崎市立学校における認知件数>

・令和5年度の件数は、小学校で5,404件、中学校で679件、高等学校で49件、合計6,132件。

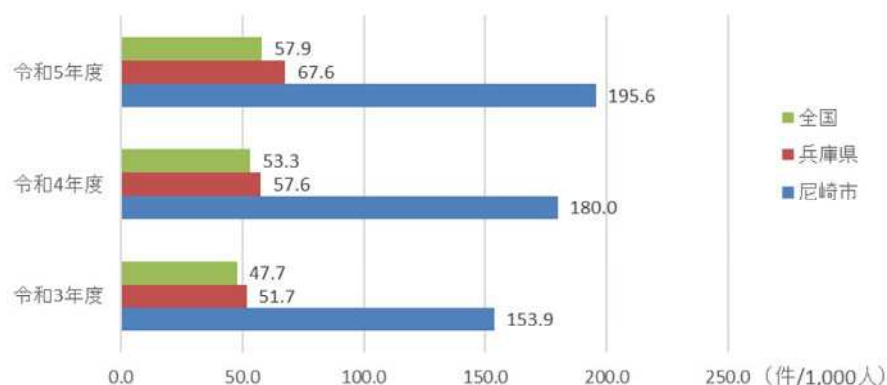
・合計件数で見ると増加傾向にあるが、校種ごとに見ると、中学校が679件と、令和3年度を下回る件数となった。

(次頁参照)

いじめの認知件数(総件数)



いじめの認知件数(1,000人あたり)



<兵庫県や全国における認知件数>

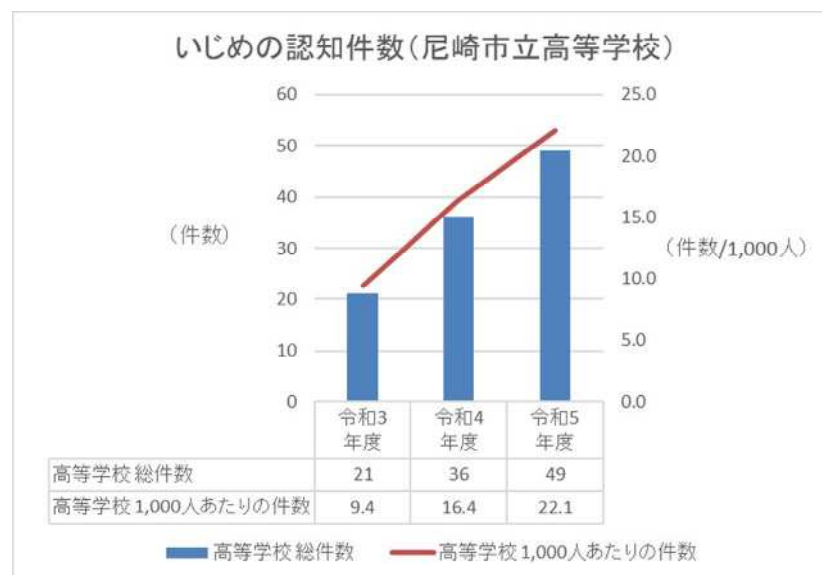
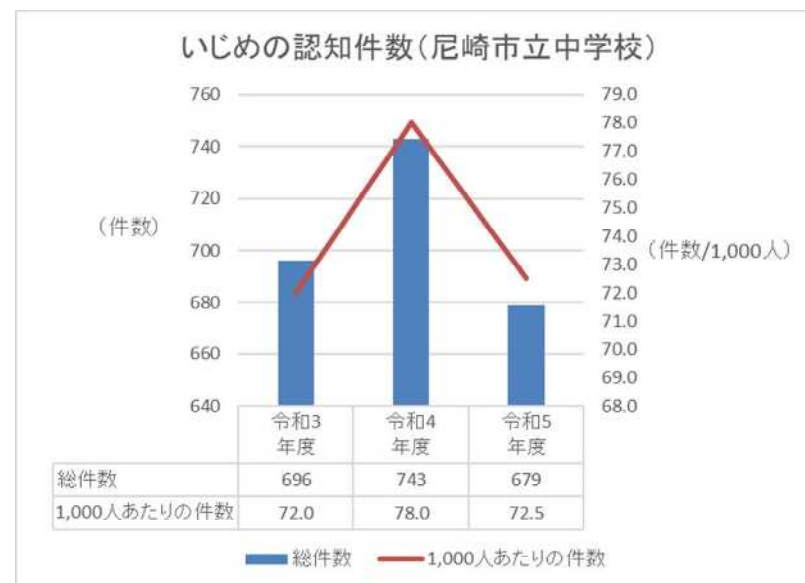
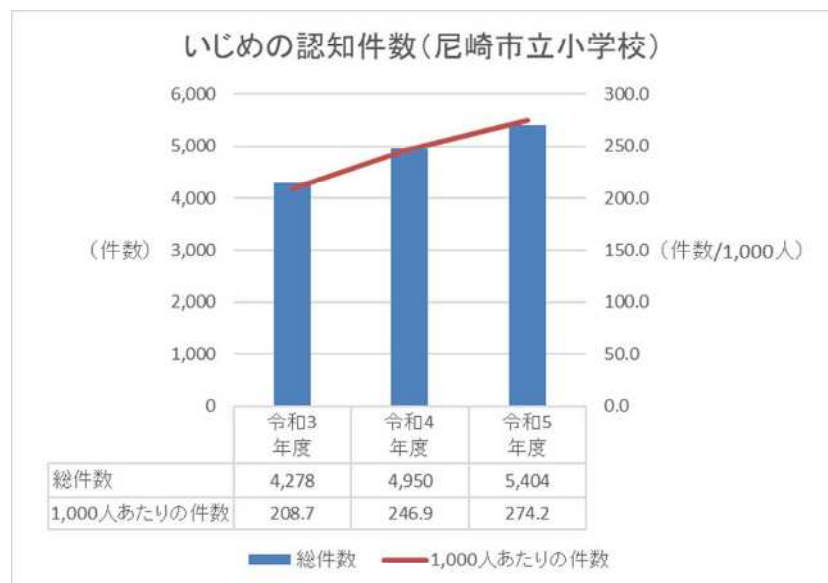
・兵庫県と全国のどちらにおいても、いじめの認知件数は増加した。

<いじめの認知件数(1,000人あたり)>

・尼崎市、兵庫県、全国いずれの件数も、増加傾向にある。

・尼崎市では積極的ないじめの認知を行っている。

(資料) いじめの認知件数(小・中・高)



2 いじめの発見のきっかけ

<いじめの発見のきっかけ(件数)>

- ・令和5年度は、「アンケート調査などの学校の取組により発見」が最も高く、次いで「児童生徒(本人)からの訴え」、3番目に「児童生徒(本人)の保護者からの訴え」が多くなった。

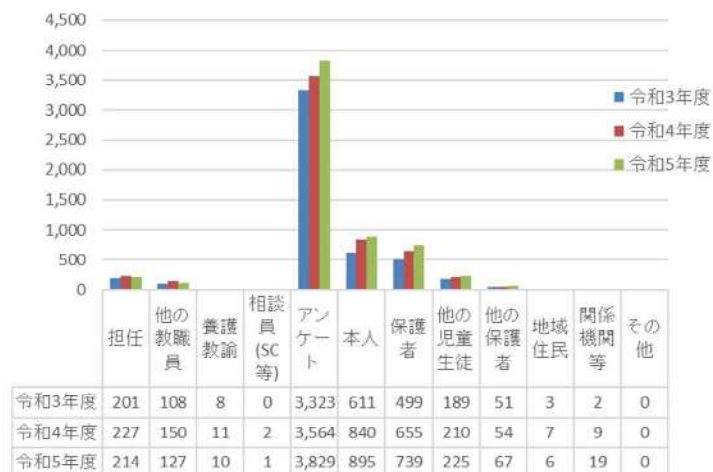
いじめの発見のきっかけ(尼崎市:構成比)

(構成比)



いじめの発見のきっかけ(尼崎市:件数)

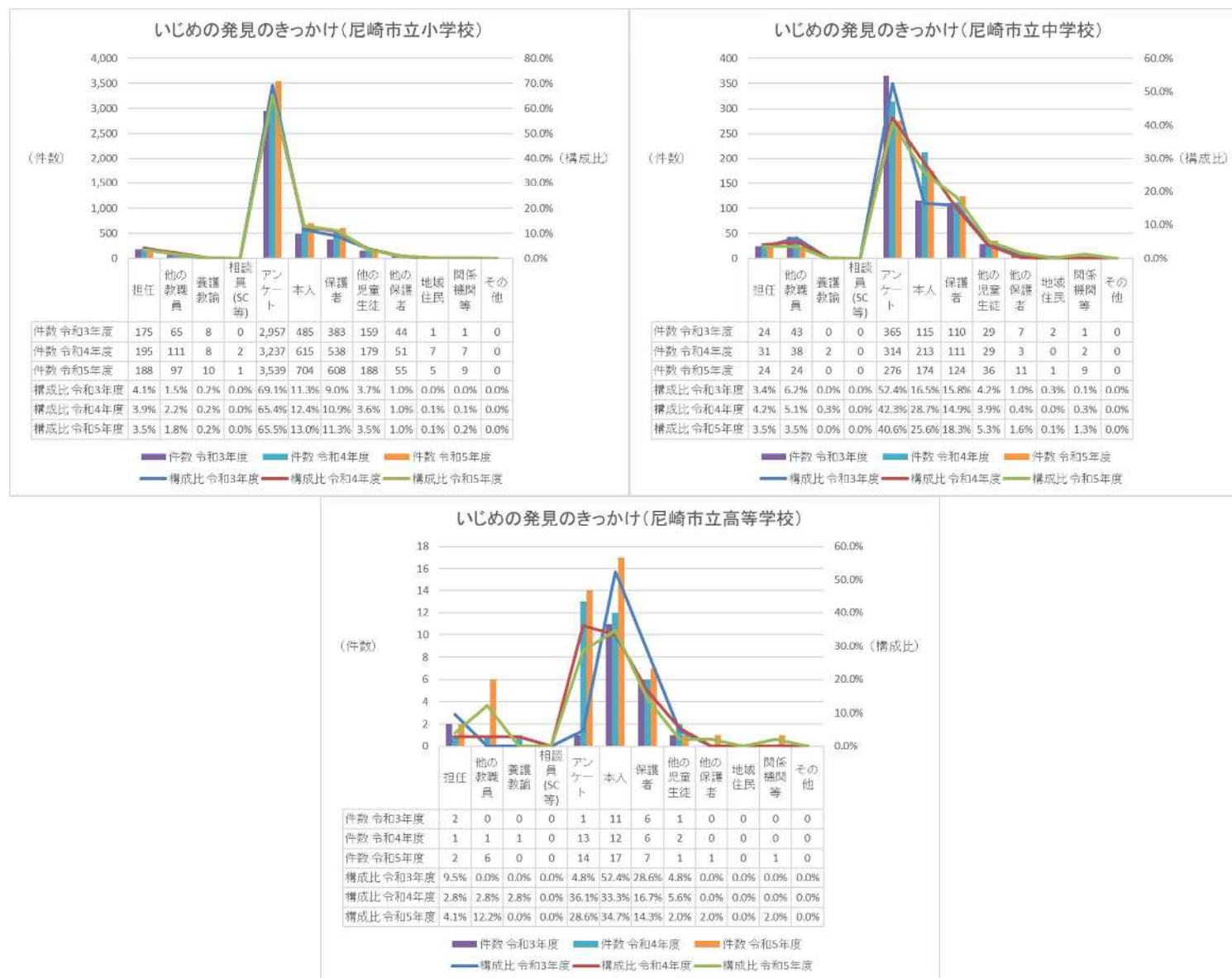
(件数)



<いじめ発見のきっかけ(構成比)>

- ・過去3年間を通じて、「アンケート調査などの学校の取組により発見」が半数以上を占めている。
- ・過去3年間を通じて、構成比の波形は、類似している。

(資料) いじめの発見のきっかけのR3～R5推移(小・中・高)



3 いじめの態様

<態様の構成内訳(全体)>

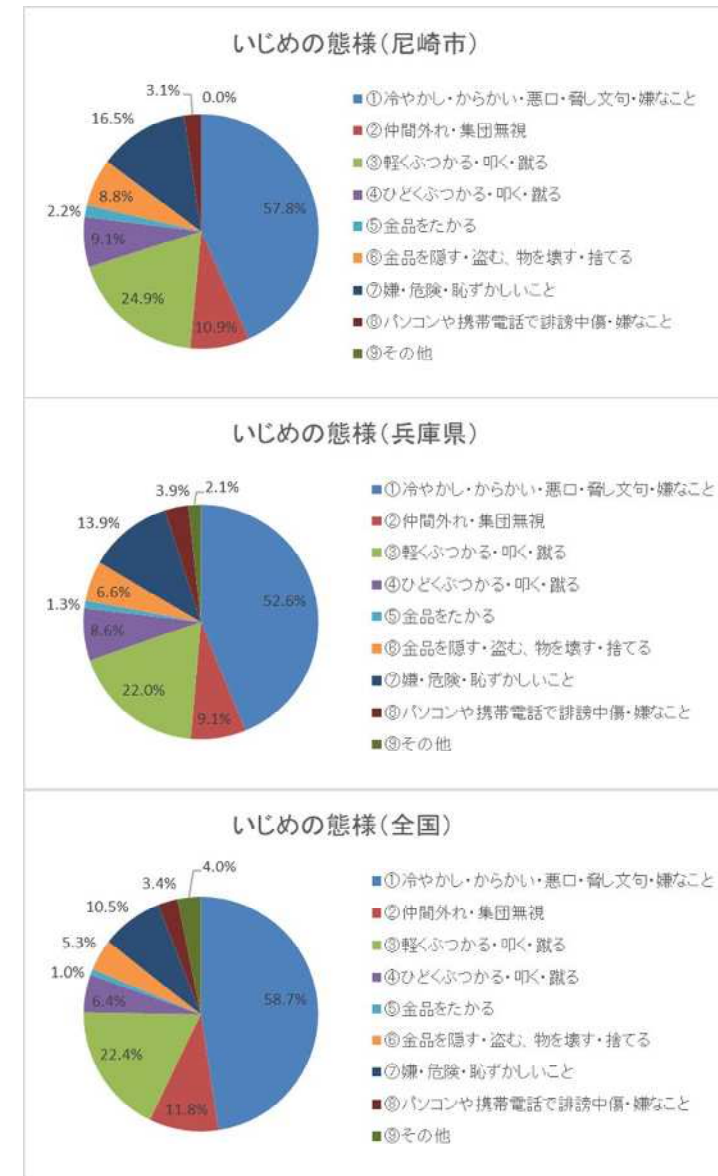
- ・令和5年度は、尼崎市、兵庫県や全国で共通して、「冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多い割合を占めている。
- ・次いで、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」の構成比が高かった。

<態様の構成内訳(校種別)>

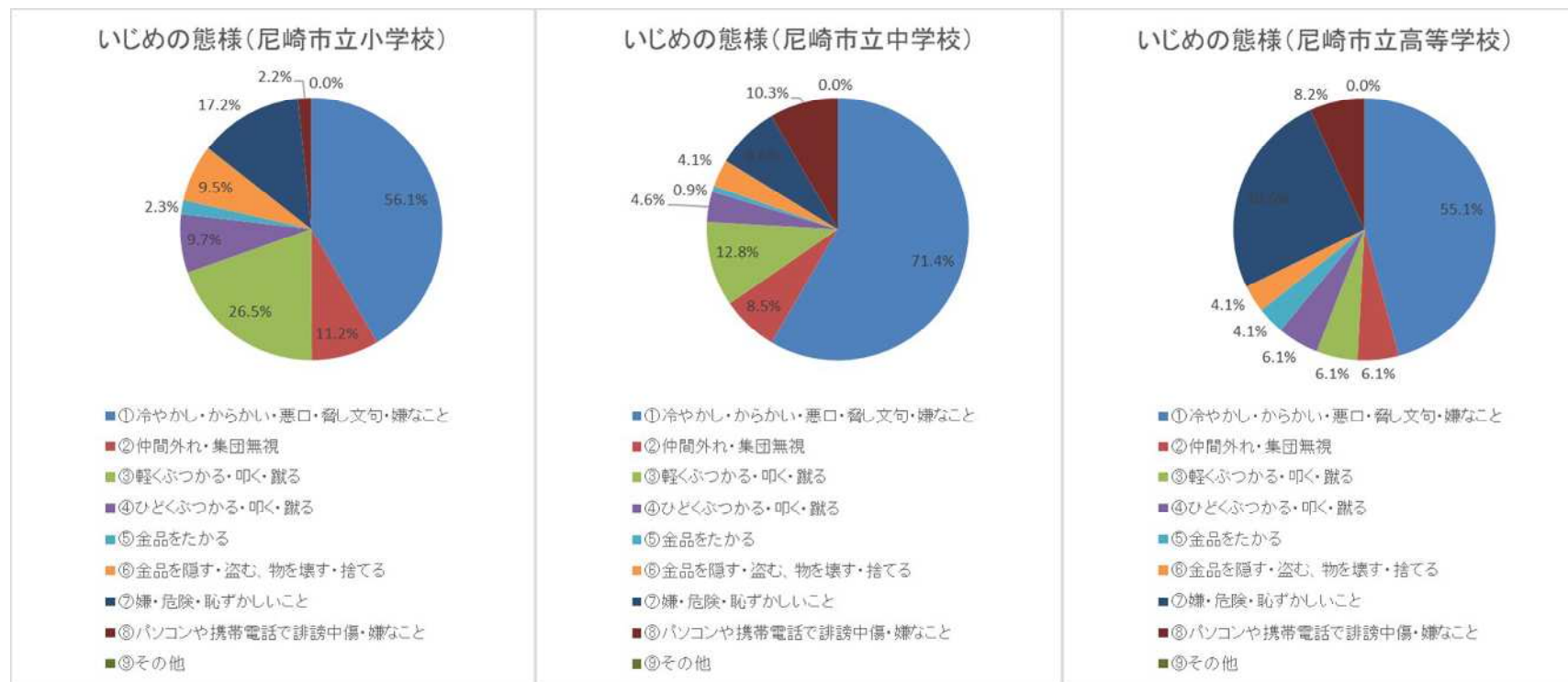
- ・中学校においては、「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」が3番目に多かった。(令和2年度以来)
- ・高等学校においては、「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」が2番目に多かった。

(次頁参照)

※この表における構成比は認知件数に対するものであり、構成比の合計が100%を超えている。
これは、1件のいじめ認知に対し、複数の態様が該当したものを含んでいることによる。



(資料) いじめの態様のR5内訳 (小・中・高)



※この表における構成比は認知件数に対するものであり、構成比の合計が100%を超えている。これは、1件のいじめ認知に対し、複数の態様が該当したものを含んでいることによる。